

## トピック①「コミュニケーション、日常生活、行政窓口」

課題	課題の解決のために、どんな取組が有効か	誰と連携するか
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートでは職員の説明不足、窓口で使う言葉が難しいので困った、という意見がある一方で、やさしい日本語で話すことを失礼と感じられることもある。外国籍の方という捉え方ではなく、困ったことがあるから来庁したと捉え、平等に対応することが大事。電話通訳も利用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多言語化のガイドラインの作成</li> <li>やさしい日本語</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>出生・転入時の申請手続きでのコミュニケーションが難しい。翻訳アプリ・外国語対応できる職員が対応している。</li> <li>ハンコ文化の理解が乏しい。</li> <li>職員も語学をすべきか。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本で生活していく以上、日本語能力を身に付けることは必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語学校や語学学校などの講義に参加できる環境、連携も有効</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語学校、語学学校</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>犯罪に手を染めてしまった外国人。生活が不安定であることが原因であろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上尾市内の企業での外国人求人、受け入れ可能な国籍などの情報収集・提供する。</li> <li>受け入れ企業には補助金を支給するなど、マッチングを進める施策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>休みの日に通える日本語教室がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設または拡充</li> <li>外国人を一定数以上（例えば10人以上）雇用している会社で日本語学習の機会を提供する。週に1回1時間程度とか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPO など</li> <li>企業</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民ボランティアによる日本語教室で指導ボランティアの数と質の確保が困難</li> <li>・ 財源の確保が困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアのための研修機会を設ける</li> <li>・ 外国人従業員の日本語能力向上を目指す企業と市、または協会の連携で労働者に特化した日本語教室の開催。同レベルの学習者を集められるなら、マンツーマンではなく教室スタイルの日本語教室でボランティアの数が少なくても運営できるスタイルにする。会話練習の相手役として市民ボランティアの参加を募る。日本人市民との繋がりを育む場としても機能できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業</li> <li>・ 国際交流基金（教材リソースを活用）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語がまったくできない子どもへの日本語学習支援が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まずは子どもの母語で日本語学習を支援する</li> <li>・ 日本語学習支援のアドバイスを受ける。</li> <li>・ 母国の日本語教師は日本の現状を生で知ることができるというメリットも。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際交流基金日本語国際センター（母国語がわかる日本語教師）</li> <li>・ 母国の日本語教師</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政手続きでの日本語が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員がやさしい日本語を使う。そのための研修を受ける</li> <li>・ 市 Web サイトや書類の表現をやさしい日本語に直す</li> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県国際課（やさしい日本語研修）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民生委員として、これまで外国人に対応することはなかったが、これからは対応する場面が増えていくと思われる。民生委員の存在を知ってもらうにはどうしたらいいか？民生委員の地域での活動においてコミ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市、県、国、NPO の相談窓口</li> </ul>

<p>コミュニケーションを取るうえで何に気を付けたいか？民生委員自身の意識も変えていく必要がある。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>現場からの通訳ボランティア派遣要請に応えられない。派遣要請される言語の通訳ボランティアがいない。ベトナム語、タガログ語、ネパール語、ベンガル語、モンゴル語が主に不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語を習得した外国人の協力を得る。</li> <li>登録者を増やすために有償化が必要？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人市民</li> <li>留学生</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人のための相談窓口の相談員を担える人材が足りない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談員を育てる。教育する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県国際交流協会</li> <li>入管在留支援課</li> <li>日本語ができる外国人</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人のための相談窓口の開設時間が限られているので相談に来られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談窓口の充実。週に3回、5言語とか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語ができる外国人</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>病院や学校の行事・説明会など、通訳の手助けが欲しい場面がたくさんある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人による通訳ボランティア登録制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語ができる、日本での生活歴がある外国人</li> </ul>

## トピック②「妊娠・出産、子育て、教育」

課題	課題の解決のために、どんな取組が有効か	誰と連携するか
<ul style="list-style-type: none"> <li>妊娠出産で母子手帳をもらえる場所が分からないという意見に対して、まず病院で診察してから市役所に来る流れだが、病院側から案内がなかったのかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現時点で既に利用可能なツール(他の市町村で作成した多言語フォーマット等)</li> <li>多言語化のガイドラインの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院・医療機関等 医療機関が集合体になることで医療通訳の手配をできる体制を作る。小規模な医療機関単体では医療通訳を利用できる仕組みを作るのにコストがかかるが、市の医療機関を取りまとめれば可能では。</li> <li>県・埼玉県国際交流協会等 県や県協会のリソースを使う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>母親学級・父親学級が日本語のみで、日本語に不安がある人は参加できない、という意見はこれまでもあったが、職員のみで対応できるか不安。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児健診の間診票が日本語でしか対応してない。元々保健センターで検診している方は事前に打ち合わせして聞き取りしているが、その支援を受けていない人は難しい。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>上尾市中央総合病院から通訳ボランティアの派遣を依頼された。市内最大の病院でも医療通訳の仕組みは整っておらず、ポケットで対応している。小規模の診療所などでは支援制度はより不十分かもしれない。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ニュースで報道された外国人技能実習生による新生児の遺棄事件。妊娠、出産について必要な支援を受けられない人がいるのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技能実習生の場合、入国を支援した日本人が必ずいる。そのような支援者との紐づけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政と医療機関</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"><li>日本語指導員に支援のための知識が足りない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>日本語指導員への研修</li><li>文科省の「日本語指導アドバイザー」派遣制度を利用する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>文科省</li><li>NPO など</li></ul>
--	---	--

## トピック③「防災、医療」

課題	課題の解決のために、どんな取組が有効か	誰と連携するか
<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人が育児・出産できなくなったという相談件数が増加。慣れない日本で初めての育児となり困っている外国人の方への支援が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同郷の子育て経験者の支援を受けられる仕組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院・医療機関等</li> <li>県・埼玉県国際交流協会等</li> <li>地域の先輩外国人ママ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の情報伝達 限られた数の職員で対応するので多言語化は困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やさしい日本語</li> <li>他市町村のリソース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主防災会、自治会</li> <li>地域の外国人コミュニティ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療に対する不安がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人市民もかかりつけ医、かかりつけ薬局をもつ</li> <li>地域包括支援センターのような組織</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>近所の安全、治安に対する不安 (住まいの敷地内に不審者が侵入したケースあり)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災防犯対策を支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防署、警察署</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語が通じる病院を知らない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の外国語 OK の医療機関リストを作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師会</li> </ul>

## トピック④「近所付き合い、仕事」

課題	課題の解決のために、どんな取組が有効か	誰と連携するか
<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人求職者への支援</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>文化などを知る機会、住民との交流機会を増やせる環境を身近に作りたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学や短大などの文化祭</li> <li>お祭り、敬老会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学など教育機関</li> <li>自治会、近隣住民</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本文化への理解を深める、市内飲食店の海外へのアピール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人が日本食を提供する飲食店を利用したら割引がもらえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲食店</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本人と外国人の交流がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル、清掃、夏祭りなど、恒例のコミュニティ活動に外国人を誘う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人コミュニティのキーパーソン</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事が見つからない</li> <li>人材不足に悩む事業者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内事業者とのマッチング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護施設</li> <li>農家</li> <li>商工会議所</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語を勉強することも、地域の活動に参加することもなく朝から晩まで一生懸命働く外国人労働者。日本語ができず、近所の人とうまく付き合い合えないまま時間が経ってしまった人たちがいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語学習機会の提供（日本語学習の義務化）</li> <li>日本語教室を増やす</li> <li>子どもへの学習機会の提供（子どもの日本語学習の義務化）</li> <li>地域活動への参加促進。外国人キーパーソンに声をかけて友だちと一緒に参加してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元のコミュニティ</li> <li>外国人コミュニティのキーパーソン</li> </ul>

- 進捗評価

計画策定後、2年間(2022年度、2023年度)は市職員が進捗評価を行う。3年目(2024年度)には次期多文化共生推進計画策定委員会を設立。委員会は現計画の進捗評価から始め、次期計画の策定に取りかかる。

目的は現計画のさらに強化すべき点などを新計画に反映させること。

	庁内検討会議	策定委員会	アドバイザー	事務局	会議での審議事項
2021年4月	○ 4/13		○		基本目標、基本方針の決定。施策の紐付け
5月					
6月	○				計画の検討(コミュニケーション支援、生活支援、地域活性化、意識啓発) 具体的な施策、数値目標の設定
7月				計画文面作成開始	
8月	○		○		計画の検討
9月					
10月	○				計画の検討
11月				パブコメ(案)	
12月	○		○		計画文面の確認
2022年1月					
2月	○				最終確認
3月					

## 上尾市多文化共生推進計画 体系(案)

基本目標(どうありたいか)	基本方針(そのために何が必要か)	施策(何をするか)	具体的な取り組み	数値目標	推進体制(誰が)	
1 安心して暮らせるまち	1 コミュニケーション支援	1-1-1 多言語化のガイドラインを作成し、生活に必要な情報を多言語で提供する	・通訳・翻訳ボランティアの増強。特に需要が増えている言語の協力者を募る。 ・多言語でタイムリーな生活情報の発信			
		1-1-2 行政手続きにやさしい日本語を活用	・職員向けにやさしい日本語研修を実施する ・難しい文書をやさしい日本語に書き換える			
		1-1-3 日本語学習の機会提供	・仕事が休みの日に通える教室を新設する ・日本語ボランティアの養成 ・事業者による日本語教室開催を支援			
		1-1-4 相談体制の充実	・相談窓口での対応言語を増やす ・相談員を養成・教育する			
	2 生活支援	1-2-1 子どもが安心して教育を受けられる環境整備	・多言語での入学前ガイダンスの実施 ・日本語指導員への研修を実施 ・就学状況を100%把握する ・学習支援活動、日本語補習の実施 ・多言語での進学ガイダンス、進路相談			
			1-2-2 安心して医療機関にかかれる環境整備	・外国語OKの医療機関リストを作成する ・医療通訳体制を敷く ・保健師訪問時の通訳同行		
		1-2-3	・			
	3 災害への備え	1-3-1 災害時における情報伝達手段・支援体制の整備	・災害時多言語支援センターの訓練実施 ・緊急速報メールをやさしい日本語でも配信する ・災害時の外国人への支援対応のマニュアル化			
			1-3-2 防災意識の啓発	・地域の防災訓練への外国人住民の参加促進		
			1-3-3 他地域・他団体との災害時外国人支援の連携・協力			
	2 活躍できるまち	1 地域経済の担い手	2-1-1 外国人を雇用したい事業者への支援の充実	・雇用セミナーの開催や就労規則の翻訳支援による雇用促進		
			2-1-2 就労支援の充実	・就労マッチングの実施 ・就労相談窓口の開設・運用 ・就労のための研修の実施		
2-1-3 外国人の労働環境の整備・向上						
2 地域コミュニティの担い手		2-2-1 地域の担い手として外国人の定着の促進	・自治会、PTA、消防団などへの外国人の加入と定着の促進			
		2-2-2	・			
3 多文化共生の担い手		2-3-1 通訳翻訳ボランティアの増強	1-1-1の再掲			
	2-3-2 多文化共生ボランティアの養成	・多文化共生ボランティアの新規登録の促進と養成				
3 助け合い、発展するまち	1 意識啓発	3-1-1 多文化共生についての意識啓発	・多文化共生に関する出前講座の実施			
		3-1-2 地域で活躍する外国人の紹介	・Webサイトで紹介するページを設けたり、国際交流イベントで展示を行う			
	2 交流の促進	3-2-1 交流の機会提供および機会提供の支援	・交流イベントの開催および開催の支援			
		3-2-2	・			
	3 グローバル化への貢献	3-3-1 外国人市民による上尾市の魅力の海外へのアピールの仕組みづくり	・上尾特産品やグルメをSNSで海外に発信、コロナ後のインバウンドを盛り上げる			
3-3-2		・				